



布施だより

《 学校グランドデザイン ～あいさつ～ 》

第10号でお伝えしたように今年度の学校グランドデザインは「人権を尊び、自らが高いめあてを持ってたくましく生きる生徒の育成をめざす」を教育目標に据え、指導の柱に「聴く・チャイムスタート」<あいさつ><合唱>の3活動を考えています。

そして確かな学力を獲得していく上で欠かせない基盤が「支え合い高め合う集団づくり」です。この「支え合い高め合う集団づくり」を意識していく上で、<あいさつ>を交わし合う学校づくりを大切に考えて行こうと願っています。相手意識・他者尊重・コミュニケーション力の育成、これらは今年の生徒会スローガンである「怒=思いやり」とも深いところで関わってきます。

そんな<あいさつ>に関わって、以前読んだ中学校教諭の随筆を紹介します。

～ 心の中に横たわっている^{うれ}愁^{あんしゅう}いく暗愁 ～

毎朝、昇降口や廊下で、明るく、元気な挨拶を交わす生徒が何人もいます。そんな時、中学生に対する爽やかな頼もしさを覚えます。しかしながら「おはよう」と声を掛けても、黙って通り過ぎる生徒や両手をポケットに入れたまま、口をわずかに動かすだけの生徒もいます。中学生の幅広さは、挨拶の面でも顕著です。

中学生には常に「明るく、元気に、快活に」という姿勢が求められています。確かに明るい社会や時代、人生を築くためには、このような姿勢を欠くことはできません。しかしながら、明るさや元気を中学生に過度に求めますと、自分の内面を見つめ、自己理解を深める青年前期の成長期にそぐわない面が生じるのではないのでしょうか。自分を見つめることは、自分の内なる混乱や悩み、矛盾を直視する活動ですので明るさや快活さとは異質の内省的な行為であり、一見いわゆる暗い行為ですが、成長上、中学生にとっては必要不可欠な営みなのです。



<あいさつ運動 より>

明るさも元気も快活も、人が生きていくために重要な姿勢ですので、明るく元気に澁刺と生きたいと願わない人はいないでしょう。しかし、人の心も体も、それほど単純な仕組みになってはいません。常に人の心や体は、快活さや元気で満たされているわけではないのです。人は誰も^{しょうぜん}悄然として、人知れず深いため息をつきたいときがあります。中学生も誰とも話したくないときがあるでしょう。その場にしゃがみこんでしまいたいほど哀しいこともあるでしょう。そして

布団にもぐって涙を流したいこともあるでしょう。憂鬱で、とても明るく快活に振る舞えない時が、中学生にもあるのです。

このような何とも言えない、人の心の中に横たわっている根源的な愁いや理由の知れぬ深い愁いを、ある作家は「^{あんしゅう}暗愁」という言葉で表現しています。そして「暗愁」とは決して困ったものではなく、普段から心の中に抱いているものであり、「暗愁」にまっすぐに向き合い、じっと見つめ、対話を繰り返すことによって、その「暗愁」の背後にある人生の真実や不条理を実感する、と指摘しています。

ともすると、明るいものが善で暗いものは悪と考えがちですが、「明」も「暗」も併せ持つのが人間ですから「暗」の部分を見たり拒否したりして、無理矢理背伸びをしてまで明るく、元気に振る舞う必要はないと思います。明るく快活に、という姿勢を大事にしながらも、自分の心の中にある「暗愁」を意識し、自省的に向き合うことによって「命の根」を心の中に深く張ることを、中学生に願っています。

生徒誰もが明るく、にこやかなあいさつを願いつつ、挨拶をせずに通り過ぎる生徒は、その時「暗愁」に向き合っていると考えることにしています。

明るく礼儀正しい挨拶ができる生徒も、できない生徒も、本校の大切な生徒です。

西中の生徒諸君も、心の中に「暗愁」を抱えながら今日も素敵な笑顔で挨拶を交わし合っています。

そして私たち大人も相手意識のある挨拶を心がけて生徒諸君と向き合っている日々です。

《すごいぞっ！西中大活躍 ～北信大会での挑戦 県大会進出続々！～》

＜ソフトボール＞ ○10-0 対小諸東 準決勝○11-3 更埴西 (決勝は7月5日)



県大会出場

＜サッカー＞ △2-2 対東部 ○2-1 対附属長野 ○3-0 高山 ○1-0 戸倉上山田

県大会出場

リーグ優勝

＜男子バレー＞ ●1-2 対相森

＜女子バレー＞ ●0-2 対高山

＜男子バスケ＞ ●62-73 対川中島

＜女子バスケ＞ ●56-57 対埴生 惜敗！

＜男子テニス＞ 団体優勝

県大会出場

小林元気くん 山口唯斗くんペア 4 位

唐木田勇希くん 松村恭平くんペア 内山雄介くん 山口航生くんペア

ベスト 16

＜女子テニス＞ 団体 2 回戦敗退 個人戦敗退

＜男子柔道＞ 齊川裕也くん (3 位)

県大会出場

＜女子柔道＞ 団体 3 位

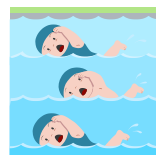
県大会出場

平林笑佳さん (2 位) 依田夏さん (2 位) 齊川綾華さん (3 位)



<バドミントン> 団体3位 個人戦敗退

県大会出場



<水泳> 小林大真くん (100平 7位 200平 7位)

2名県大会出場 春原滉大くん (50自 9位 個人メ 9位)

<新体操> 西村玲歩さん (リボン6位 ロープ6位 個人総合5位)

県大会出場



北信大会を終えて、少なからずの3年生諸君が引退の時を迎えることとなります。生活の張りを失い、しばらくは呆然とした日々が待っているのでしょうか。(もちろん、県大会、北信越大会への挑戦の日々はまだまだ続きます。)

けれども、これからの日々こそが3年生諸君にとって真価を発揮する時になりますね。ひとりになって踏ん張り、学び追究する。仲間と心から楽しめる時と生徒会活動を大切にする。最上級生として下級生諸君に西中の大切な歴史と精神を伝えていく。・・・

自分を落ち着いて見つめる時間が待っています。この時間を持てることこそが「心の根」や「心の芯」を作りあげていくことにつながります。応援しているぞ、3年生諸君!

本当によく頑張ってくれました。ご苦労様でした。

《 長野県道路交通法施行規則一部改正～自転車の傘差し運転等の禁止～ 》

「長野県道路交通法施行規則一部改正～自転車の傘差し運転等の禁止～」が平成26年7月1日に施行されました。以下の2点が今回新たに禁止となる行為です。

- 1 傘を差して、自転車等を運転すること。
- 2 物を持つなど、車両の安定を害するおそれのある方法で自転車等を運転すること。

ご家庭でも自転車使用について話していただき、加害者にも被害者にもならぬよう安全な運転を心がけるよう、配慮頂ければ幸いです。

(次ページにチラシを載せます。)

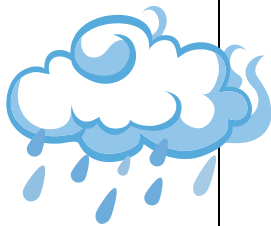


～ ～ ～ ～ ～

雨の時期の「詩」をひとつ・・・

あめ ～ 山田今次 ～

あめ あめ あめ あめ
あめ あめ あめ あめ
あめはぼくらを ざんざかたたく
ざんざか ざんざか
ざんざん ざかざか
ふる ふる ふる ふる
ふる ふる ふる ふる
つぎからつぎへと ざかざかざかざか
みみにも おねにもしみこむほどに
ぼくらのくらしをかこんでたたく



梅雨がもうまもなく明けようとしています。